

上山遺跡発掘調査報告

2021（令和3）年2月

三重県埋蔵文化財センター

例　　言

1. 本書は、三重県松阪市山下町上山に所在する上山遺跡の工事立会による埋蔵文化財調査報告書である。
2. 工事立会は、三重県教育委員会が三重県農林水産部から依頼を受けて実施した。
3. 工事立会の体制は、次のとおりである。

立会担当	三重県埋蔵文化財センター	調査研究1課	角正芳浩	櫻井拓馬	
整理担当	三重県埋蔵文化財センター	調査研究1課	穂積裕昌	角正芳浩	元座範子
立会期間	令和元年6月24日、9月24日				
立会面積	上山遺跡 72 m ²				
4. 工事立会に先立ち実施した地形測量調査の体制は、次のとおりである。

調査担当	三重県埋蔵文化財センター	調査研究1課	中村法道	角正芳浩	元座範子
調査期間	令和元年5月8日				
5. 当報告書の作成業務は三重県埋蔵文化財センター調査研究1課が担当し、本書の執筆は、第II章を穂積が、それ以外を角正が担当し、全体の編集は角正が行った。
6. 当発掘調査の記録は、三重県埋蔵文化財センターで保管している。

凡　　例

1. 本書で使用した地図類は、国土地理院発行の1:25,000地形図「松阪」、三重県共有デジタル地図（平成29年測図）等を基にしている。なお、三重県共有デジタル地図については、三重県総合事務組合管理者の承認を得て、同組合所管の「2017三重県共有デジタル地図（数値地形図2500（道路線1000）」を使用している。（承認番号：令和2年4月1日付三総合地第2号）
2. 当該事業は任意座標により実施されたため、作成した図面等に世界測地系に基づく座標の取り付けを行っていない。このため、本書で用いる方位は、磁北で示している。
3. 標高は、東京湾平均海水面（T.P.）を基準としている。
4. 土層及び遺物の色調は、日本色研事業株式会社発行の『新版標準土色帖（19版）』による。
5. 遺物実測図の凡例は、以下の通りである。
 - ・実測番号は、当センター所蔵の遺物実測図番号である。
 - ・色調は、日本色研事業株式会社発行の『新版標準土色帖（19版）』による。
 - ・土器の残存率は12分割して示している。口縁部が残存していないものについては、底部等の残存率を示している。また、1/12以下のものは、「小片」等と示している。
 - ・計測値は完存もしくは復元の値であり、口径・底径は実測時の接地面で計測している。
6. 当報告書で用いた遺構表示略記号は、下記のとおりである。

S Z	古墳状隆起
-----	-------
7. 遺物写真図版の番号は、遺物実測図の番号と対応している。
8. 遺物写真図版は、縮尺不同である。

目 次

I 前 言	1
1 調査に至る経過	
2 調査の方法	
3 文化財保護法に関する諸手続き	
II 位置と環境	3
1 地理的環境	
2 歴史的環境	
III 遺 構	5
IV 出土遺物	7
V ま と め	8
1 古墳状隆起について	
2 上山遺跡について	
3 上山古墳群・上山遺跡の整理	

挿 図 目 次

第1図 上山古墳群・上山遺跡	2	第4図 S Z 1 遺構平面図	6
第2図 周辺遺跡位置図	4	第5図 S Z 1 土層断面図	6
第3図 S Z 1 調査前測量図	5	第6図 出土遺物実測図	7

表 目 次

第1表 出土遺物観察表	8	第2表 上山古墳群・上山遺跡新旧対照表	8
-------------	---	---------------------	---

写 真 図 版 目 次

写真図版 1 上山古墳群・上山遺跡遠景	9	写真図版 3 S Z 1 掘削状況	11
S Z 1 遠景		S Z 1 掘削状況	
写真図版 2 S Z 1 全景	10	写真図版 4 出土遺物	12
S Z 1 全景			

I 前 言

1 調査に至る経過

(1) 事業の概要

三重県農林水産部治山林道課では、豪雨等による山腹の崩壊及び流失により、人家等へ土砂災害の発生する危険性が高まった事案について、保全対象の安全確保のための整備を行っている。

近年、頻繁に発生する豪雨は、三重県にも大きな被害をもたらしている。松阪市山下町上山地内においても、平成29年10月に台風21号の影響によって地すべり災害が発生した。これを受け実施した現地踏査では新旧様々な地すべり活動を示す溝状の陥没地形等が確認された。併せて調査ボーリングや計器観測が実施され、それらの結果から地滑り対策工事が計画された。具体的な工事内容としては、地すべりの誘因である地下水位上昇を抑制するボーリング暗渠工と、地すべりへの抵抗力を発揮するために不動土塊まで鋼管杭を貫通するように打設するものである。

(2) 調査の経過

平成29年12月11日、農林水産部治山林道課から埋蔵文化財保護措置の要否についての照会があった。これに対して、実施予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である上山古墳群の範囲内にあたることから、保護措置が必要である旨を回答した。翌平成30年2月には、埋蔵文化財センターと松阪市教育委員会とで現地を踏査し、上山1号墳から4号墳および天王山8号墳から10号墳の所在地を特定した。

一方で、上山古墳群の調査を実施するには、安全上の課題があることが判明した。特に、上山1号墳は地すべり災害が発生している箇所の直上に位置し、一部はすでに斜面崩落が進んでいた。また、丘陵下には人家が存在し、これも一部は地滑りにより損壊している状況であった。このため全面発掘調査を実施するには作業および安全上の問題があり、その点を考慮した結果、鋼管杭の打設箇所にあたる上山1号墳の測量調査と工事立会による記録保存を図ることとなった。

立木伐採後の令和元年5月に現地を確認したところ、地すべり崩落土中に古代を中心とした時代の遺物が包含されていることを確認し、これまで未確認の遺跡が存在することが新たに判明した。これについては松阪市教育委員会との協議により、新たに上山遺跡として埋蔵文化財包蔵地として登録した。

工事立会は令和2年6月及び9月に実施した。その結果、当初上山1号墳として認識していた古墳状の高まりは、丘陵斜面崩落土の自然堆積による古墳状の隆起であることが判明した。一方で、工事立会の過程で、上山遺跡に由来する古代から近世にかけての遺物が濃密に散布していることが確認された。これらの結果を受け、本書は「上山遺跡」として報告することとした。

なお、今回の調査対象とならなかった「1号墳」以外の古墳群については、従来どおりの上山古墳群として取り扱っている。

2 調査の方法

(1) 現況測量調査

古墳状隆起の現況を記録するための事前測量調査を墳丘部分とその周辺部を対象として、1/100作図による平板測量で実施した。

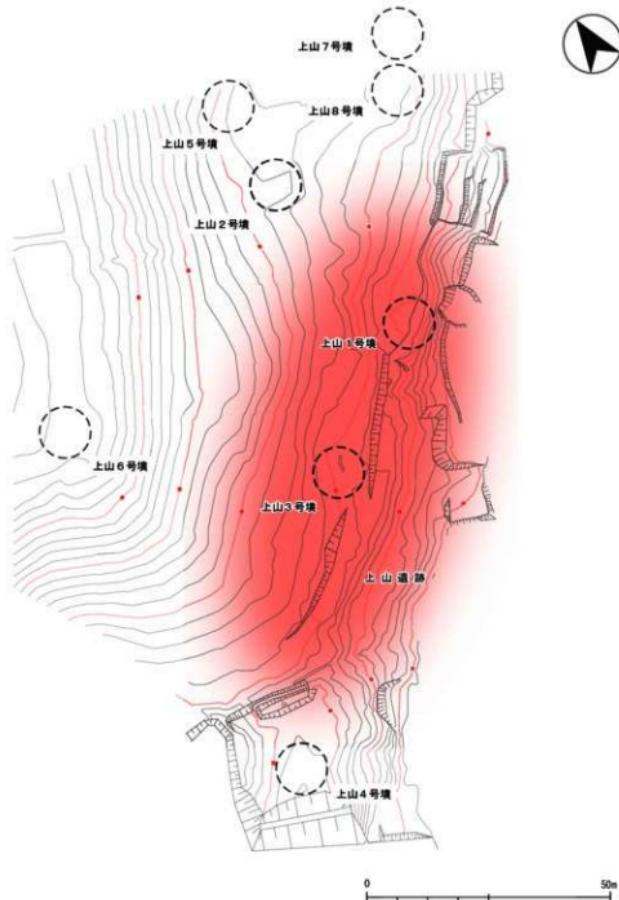
(2) 工事立会

工事立会は、下記のとおり実施した。
①ボーリング暗渠工に伴う古墳状隆起近接孔口箇所の掘削時における遺構・遺物の確認。
②鋼管杭打設箇所の整地に伴う上山1号墳の埋葬施設等の確認および土層観察。
調査における記録写真は、ニコンD 3300を基本とし、補助的にコンパクトデジタルカメラを用いた。出土遺物の撮影には、ニコンD 800Eを用いた。

3 文化財保護法に関する諸手続き

○文化財保護法第94条に基づく三重県文化財保護条例第48条第1項「周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等の発掘通知書」(三重県教育委員会教育長あて三重県知事通知)

- ・平成 30 年 11 月 27 日付 松農第 8520 号
- 文化財保護法第 100 条第 2 項に基づく「埋蔵文化財の発見・認定通知」(松阪警察署長あて三重県教育委員会教育長通知)
- ・令和元年 5 月 27 日付 教委第 12-4405 号
- 周知の埋蔵文化財包蔵地の範囲変更（三重県教育委員会教育長あて松阪市教育委員会教育長通知）
- 令和 2 年 10 月 16 日付 20 松文第 917 号
- 新たな埋蔵文化財包蔵地の把握について(三重県教育委員会教育長あて松阪市教育委員会教育長通知)
- 令和 2 年 10 月 16 日付 20 松文第 918 号



第 1 図 上山古墳群・上山遺跡 (1 : 80)

II 位置と環境

1 地理的環境

上山遺跡・上山古墳群（1）は、松阪市山下町字上山に所在する。上山古墳群は8基からなる古墳群で、南北700m強、東西500m弱のやや南北に長い天王山と呼ばれる独立丘陵の東斜面に立地する。上山遺跡は、上山古墳群の周辺に広がる古代を中心とした集落遺跡である。

この独立丘陵は、松阪市法田町で櫛田川から祓川（平安時代までは櫛田川旧本流）が分岐する地点の左岸に位置する標高124mの神山を南端として、そこから北へ連なる標高50m前後の小山塊群の最北に位置している。神山までの櫛田川は、安定した河岸段丘を貫くように流れてきたが、神山付近から下流はかつての祓川と櫛田川の本流移転に端的に示されるように氾濫原となり、山塊が途切れる天王山以北（櫛田川下流域）は伊勢平野でも屈指の広さをもつ冲積平野を形成している。

上山遺跡・上山古墳群の所在地は、まさに櫛田川が沖積平野へ出ようとする出口に相当し、櫛田川までは直線距離で400m、櫛田川の旧本流とされる祓川までは2kmである。

2 歴史的環境

神山から天王山に至る櫛田川左岸の約3kmにわたる山塊群と、対岸の櫛田川右岸（祓川以東）の玉城丘陵西端から明野原台地西端にかけての約3kmの地域は、県内でも屈指の古墳の密集地帯である。櫛田川左岸では、南から中万大谷古墳群（2）、やつで古墳群（3）、山添古墳群（4）、西谷古墳群（5）、若元山古墳群（6）、上山古墳群、天王山古墳群（7）と続き、右岸では南から河田古墳群（8）、大塚古墳群（9）、神前山古墳群（10）、城山古墳群（11）、織糸古墳群（12）、辰ノ口古墳群（13）と続く。

このうち左岸の山添古墳群は、全2基として把握されていたが、1号墳は自然地形、2号墳は独立丘陵上の単独墳と判明した。³木棺直葬の主体部から金銅装馬具や振り環頭大刀など注目すべき副葬品が出

土しており、径18mの円墳の可能性が報告されたが明確な周溝は未確認で、墳形及び規模の確定にはやや不安が残る。最北に位置する天王山古墳群は、1978年刊行の『松阪市史』では全10基だったが、発掘調査の結果、周溝だけが残った古墳が発見され、全19基として把握された。調査はごく一部であり、古墳の実数はさらに増える見込みである。このうち5世紀中葉～後葉の1号墳は径16.8mの円墳で、木棺直葬の主体部から蛇行剣や鐵織が出土した。上山古墳群は天王山の東南隅にある全8基の古墳群で、巨視的にみれば天王山古墳群の一角とみてよい。今回、天王山古墳群と上山古墳群の関係を再整理し、包蔵地範囲変更を行った。

一方、櫛田川右岸に目を転ずれば、神島八代神社所蔵鏡と同型の画文帶神獸鏡が出土した全長38mの帆立貝形古墳・神前山1号墳や、全長52.5mの帆立貝形古墳・大塚1号墳など5世紀後半代の多気郡を代表する有力古墳が存在し、また河田古墳群は100基以上で構成される三重県を代表する群集墳である。つまり、上山古墳群を含む櫛田川を見下ろす丘陵は、県内屈指の古墳密集地帯といえよう。

さらに、天王山の北端には、天王山古墳群の発掘調査の際に弥生・古墳・飛鳥・奈良時代の墓や集落が確認された天王山遺跡があり、東麓には上山古墳群の直下も含めて、古代を中心に縄文時代から中世までの遺構・遺物が出土した琵琶垣内遺跡³（14）がある。北麓から冲積部に入ると、縄文時代から中世までの遺構・遺物が多数出土した朝見遺跡¹⁵（15）をはじめ、堀町遺跡¹⁶（16）や中坪遺跡¹⁷（17）など冲積地の微高地に多くの遺跡が展開する。天王山から櫛田川をはさんだ対岸（右岸）には、古墳時代前期の大型建物と井戸が発見された古巣通りB遺跡¹⁸（18）がある。また、天王山の北麓には、都と伊勢神宮を結ぶ古代伊勢道の存在が推定されており、上山古墳群の東方3kmには国史跡斎宮跡¹⁹（19）が存在する。

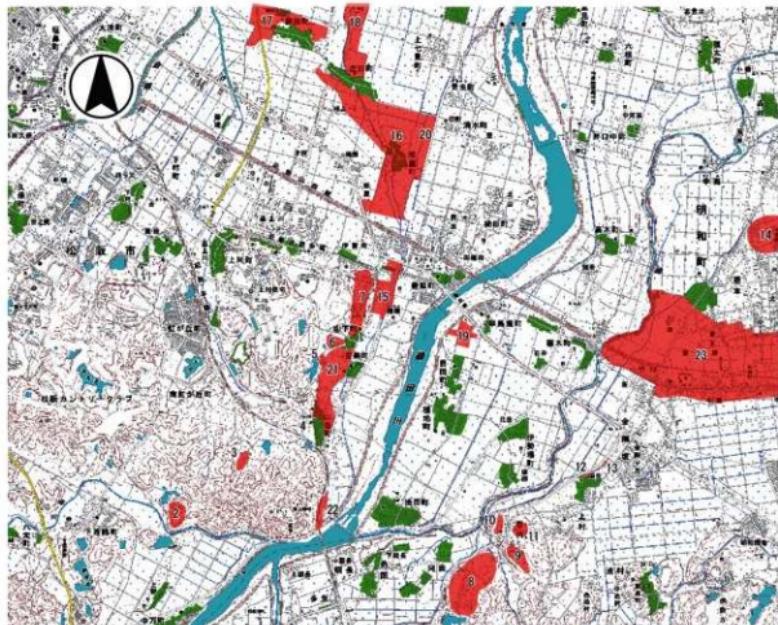
古代以降、当地は飯野郡に包含され（孝徳朝以降、多気郡から分立）、神郡として伊勢神宮との関係性の強い地域として把握されるが、当地はまさに

飯野郡の中心域を占める一角として存在したのであらう。

【註】

- ①松阪市教育委員会『山添2号墳発掘調査報告書』1998
- ②三重県埋蔵文化財センター『天王山遺跡・天王山古墳群発掘調査報告～三重県松阪市豊原町所在～』2006
- ③三重県埋蔵文化財センター『琵琶池内遺跡（第1・4次）発掘調査報告』2006

- ④三重県埋蔵文化財センター『朝見遺跡（第1・2次）発掘調査報告』2014 三重県埋蔵文化財センター『朝見遺跡（第3・4・6次）発掘調査報告』2020
- ⑤三重県埋蔵文化財センター『古勝通りB遺跡・古勝通り古墳群発掘調査報告書』2000
- ⑥杉谷正樹「古代官道と古宮跡について」『研究紀要』第6号
三重県埋蔵文化財センター 1997
- 【参考文献】
 - ・松阪市『松阪市史 資料編1 考古』1978、同『通史編』1999
 - ・多気町『多気町史 通史』1988
 - ・明和町『明和町史 第一巻・自然・考古-』2004



※本文で触れた遺跡・古墳群を中心に図示した。

1 上山道路・上山古墳群	7 天王山道路・天王山古墳群	13 紙ノ口古墳群	19 古勝通りB道路
2 中万大谷古墳群	8 河田古墳群	14 坂本古墳群	20 潘干道路
3 やつで古墳群	9 大塚古墳群	15 琵琶池内遺跡	21 山添道路
4 山添古墳群	10 神前山古墳群	16 朝見遺跡	22 大川上道路
5 西谷古墳群	11 城山古墳群	17 須田道路	23 国史跡古宮跡
6 得元山古墳群	12 織糸古墳群	18 中坪道路	

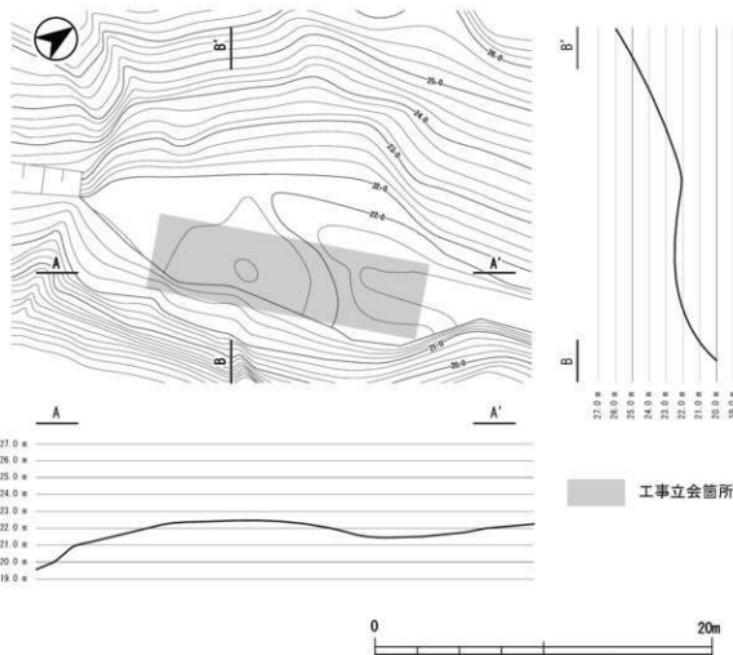
第2図 周辺遺跡位置図（1：50,000） 国土地理院「松阪」1：25,000より作成

III 遺構

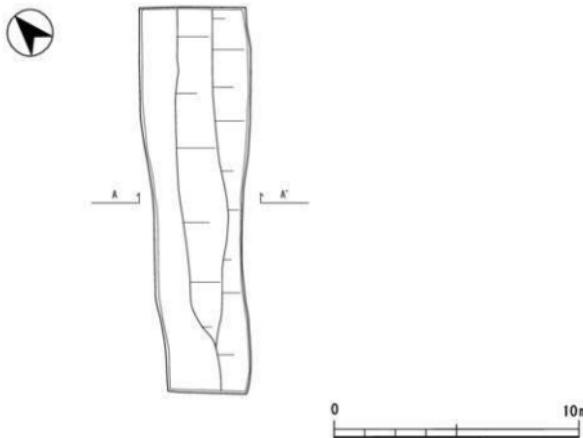
今回の調査は、地すべり対策として不動土塊まで鋼管杭を打設する箇所の内、古墳状隆起（上山1号墳）にかかる部分を対象とした。調査は、前述のように、すでに地すべりが発生していることから、古墳状隆起の掘削時に工事立会により実施した。

S Z 1 (古墳状隆起) 上山1号墳として登録されていたものである。丘陵東側斜面の標高21～22m付近に立地し、現況では0.5～0.6m程度の墳丘状の高まりを確認できるが、斜面下位の南東側はすでに地すべり崩落によって損壊しており、全体の形態や規模は不明である。

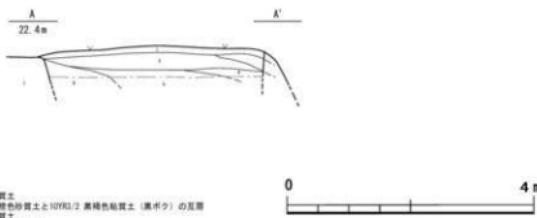
調査は、4.0m×16.0mの調査坑を設定し、重機により約50cmの深さまで掘り下げた。その結果、墳丘状の高まり部分では、表土(腐葉土)の下にぶい黄褐色粘質土と黒褐色粘質土(黒ボク)を確認した。一部はこれらが薄い互層となっており、斜面上位からの崩落土が自然堆積したものであることが判明した。このためこの高まりを古墳の墳丘盛土と判断するには至らなかった。また、周溝や埋葬施設等も確認されなかった。



第3図 S Z 1調査前測量図 (1 : 300)



第4図 S Z 1遺構平面図 (1 : 200)



第5図 S Z 1土層断面図 (1 : 80)

IV 出土遺物

今回の調査では、古墳状隆起からの遺物の出土は確認されず、ここに掲載した遺物は、すべて表土もしくは崩落堆積土からの出土である。

須恵器 蓋（1） の口縁端部は下方外側に短く伸びる。短頸壺（2）は、肩が大きく張り、底部に高台が付く。

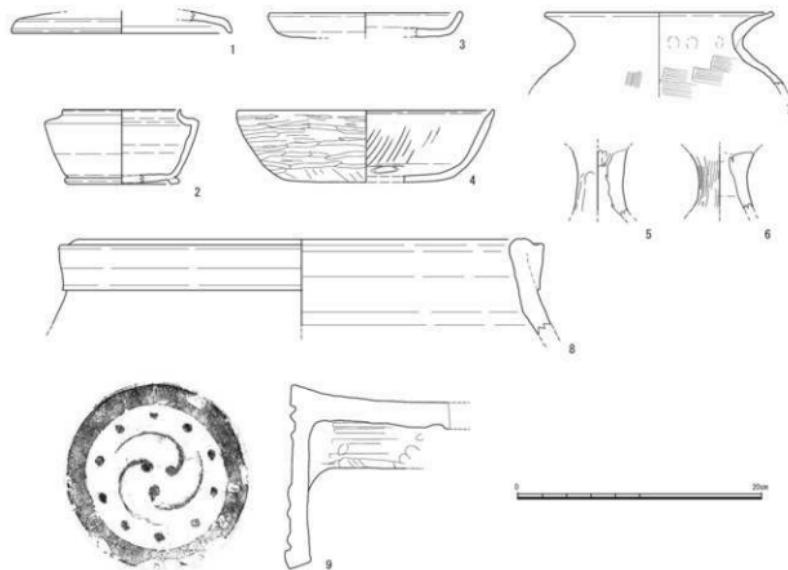
土師器 盆（3） は、平坦な底部から口縁部が外側上方に直線的に伸びる。榠（4）は、体部外面にヘラミガキを施し、内面は体部に放射状暗文、見込み部分に螺旋暗文を施す。口縁端部をヨコナデする。

5・6は、高杯の脚柱部である。外面に5はヘラケズリ、6はハケメを施す。

甕（7）は体部内面にヨコハケを施し、口縁端部を強くヨコナデする。

陶器 常滑産の甕（8） である。口縁部の内側が盛り上がり、縁帶は外縁に付着する。

瓦 左巻きの三巴文軒丸瓦（9） である。外区に連珠が10個配される。



第6図 出土遺物実測図（1：4）

検出番号	実測番号	器種	出土位置	法面	調整技術の特徴	船上	地城	色調	保存状況	備考
1	001-01	漆器類	漆土	口 径: 18.0 cm 身 高: -	外: ロクナナダ。ヨコナダ 内: ロクナナダ。ヨコナダ	良	灰白	317/2	1/12	
2	002-01	漆器類	漆土	口 径: 9.6 cm 身 高: 8.6 cm 身 高: 6.9 cm	外: ロクナナダ。船形口高台。 内: ロクナナダ。	良	浅黄	2.317/3	1/12	
3	001-05	漆器類	漆土	口 径: 16.0 cm 身 高: -	漆器により調整不可能	良	棕	3186/8	1/12	
4	001-02	漆器類	漆土	口 径: 3.4 cm 身 高: -	外: ナダ。ヘラミガキ。ハラケヅリ。 内: ナダ。ヘラミガキ。ヨコナダ	良	棕	2.3186/6	16/12	扇形模文、相輪模文
5	001-03	土器類	高杯	漆土	口 径: - 身 高: -	外: ナダ。ヘラミガキ。ユビササギ	良	棕	3186/6	御住跡
6	001-04	土器類	高杯	漆土	口 径: - 身 高: -	外: ハナメ 内: ユビササギ	良	棕	3186/6	御住跡
7	003-02	土器類	便	漆土	口 径: 29.3 cm 身 高: -	外: 鹿園式上り調整不明 内: ヨロクナナダ。ニビオサズ。イタナダ				
8	003-01	漆器	便	漆土	口 径: 18.9 cm 身 高: -	外: ヨロクナナダ 内: ヨロクナナダ				質屋蔵
9	002-02	五	漆丸	漆土	底 径: 15.0 cm	外: ヨコナダ。オサス 内: ナダ。タタキ	良	暗灰	31/3	女帝三巴 通珠 10

第1表 出土遺物観察表

V まとめ

1 古墳状隆起について

古墳状隆起（「上山1号墳」）の調査は、安全上の問題もあって限られた範囲での調査となつたが、墳丘を構成する盛土の存在が確認できなかつたことや堆積状況から、崩落土の自然堆積による高まりであることが判明した。墳丘上の高まりを古墳と判断したことについては、古墳状隆起の一部がすでに損壊していることや、周辺に天王山古墳群などの古墳群が存在していることなどを考慮すれば、やむを得ないものと思われる。

2 上山遺跡について

今回の調査の過程で丘陵斜面の崩落土から奈良時代を中心とする遺物が出土しており、丘陵状に集落遺跡が存在する可能性が提起された。上山遺跡の立地する丘陵下には、当該期の堅穴住居、掘立柱建物、井戸が検出され、「厨」墨書き器が出土するなど官衙との関係が想定されている琵琶塙内遺跡が所在す

る^①。上山遺跡は、古代においては飯野郡に属し、周辺には古代の遺跡が数多く存在する^②。また、柳田川の対岸の多気郡には斎宮跡が所在しており、上山遺跡が新たに確認されたことは当地域のあり方を知る上で注目される。

2 上山古墳群・上山遺跡の整理

上山古墳群の立地する天王山丘陵には、19基からなる天王山古墳群が広く分布する。この古墳群と同じ丘陵の東斜面にあって、行政区分では山下町上山に所在する4基が上山古墳群として区別されてきた。しかしながら、巨視的に見れば上山古墳群は天王山古墳群の一角にあり、両古墳群を同一の古墳群と見ることもできる。一方で、天王山古墳群には古墳の存在しない空白地帯があり、北群と南群に分けることも可能である。そこで今回の調査を踏まえ、両古墳群の扱いについて松阪市教育委員会と協議を行った結果、天王山古墳群のうち上山古墳群に近い8・9・17・18号墳を上山5～8号墳として名称変更することになった。これにより上山古墳群は全8基の古墳群として整理された。また、新たに存在が確認された上山遺跡についても新規登録することになった。なお、一連の手続きについては、松阪市教育委員会が行っている。

【註】

①『琵琶塙内遺跡（第1・4次）発掘調査報告』三重県総合文化財センター 2006

遺跡名	旧 遺 跡 名	遺跡番号
上山5号墳	天王山8号墳	a177
上山6号墳	天王山9号墳	a178
上山7号墳	天王山17号墳	a948
上山8号墳	天王山18号墳	a949
上山 遺跡	新発見	a950

第2表 上山古墳群・上山遺跡新旧対照表



上山古墳群・上山遺跡遠景（北東から）



SZ1遠景（南東から）



S Z 1 全景（北から）



S Z 1 全景（北東から）



S Z 1 堀削状況（南西から）



S Z 1 堀削状況（北から）

写真図版 4



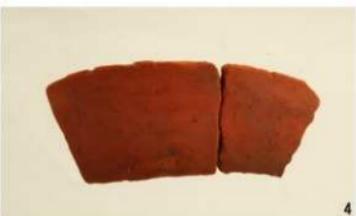
1



2



3



4



5



6



7



8



9

出土遺物

報告書抄録

ふりがな	うえやまいせきはつくつちょうさほうこく							
書名	上山遺跡発掘調査報告							
副書名								
巻次								
シリーズ名	三重県埋蔵文化財調査報告							
シリーズ番号	392							
編著者名	穂積裕昌 角正芳浩							
編集機関	三重県埋蔵文化財センター							
所在地	〒 515-0325 三重県多気郡明和町竹川 503 TEL 0596 (52) 1732							
発行年月日	2021(令和3)年2月							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
上山遺跡	松阪市山下町上山	204	a950	34° 25' 20"	136° 14' 56"	20190624 ・ 20190924	72	自然災害 防止事業 (上山)
上山1号墳	松阪市山下町上山	204	a797	34° 25' 20"	136° 14' 56"	20190624 ・ 20190924	72	自然災害 防止事業 (上山)
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
上山遺跡	集落	奈良～近世	なし	土師器杯・高杯・甕、須恵器壺、陶器甕				
上山1号墳	古墳状隆起	不明	なし	なし				
要約	櫛田川下流域左岸の丘陵に立地する上山1号墳において、現況測量調査および工事立会を実施した。その結果、上山1号墳は、自然堆積による古墳状隆起であることが判明した。新規発見の上山遺跡からは、奈良時代を中心とした時代の遺物が表面採集された。							

三重県埋蔵文化財調査報告 392

上山遺跡発掘調査報告

2021（令和3）年2月

編集・発行 三重県埋蔵文化財センター

印 刷 有限会社ミフジ印刷